

タイの高校生、思い出いっぱい離日

結城市とタイのメーサイ市の姉妹都市締結を記念し、公益財団法人 茨城国際親善厚生財団（IIFF）が行っている高校生交流事業で4月5日に来日したメーサイ高校のティアンタム・セチン君（愛称・ヤン）とカモンラク・アモンロエドワッタナシリさん（愛称ウェイ）は結城一高で、パヤオピタヤコム高校のウィルニャ・チャムナンローさん（愛称イアー）とカンピッチャ・ナムアンさん（愛称オン）は鬼怒商業高で約1カ月間の日本の高校生活を体験、4月28日に帰国しました。

ヤン君とウェイさんは、2年生のクラスに入り、一緒に授業を受けて勉強しました。部活では、ヤン君はタイでも行っていたバスケット部に入って、練習。ウェイさんは、「日本に来たら剣道を習い、タイでも広めたい」と剣道部に入部。27日に行われたクラスの送別会では、ヤン君とのバスケットの記念試合を行い、ウェイさんは習いたての居合を披露

しました。

イアーさんとオンさんも2年生のクラスに入って一緒に勉強。放課後にクラスメートらとカラオケに行くなど、すっかりすっかり打ち解けていました。部活では、日本の高校でも数少ないライフル部に入って、レーザーライフルを撃つなど、貴重な体験をしました。

27日に開かれたクラスの送別会では、クラスメートたちと手巻き寿司やデザートを作り、思い出と一緒に、手作りの味を味わっていました。

4人は、「日本を離れるのは寂しい。もっと日本で生活したい」と話していました。そして「いつまでも日本の友達のことは忘れない。また、いつか日本に来たい」と話していました。

夏休みには、結城一高と鬼怒商業高の生徒と教師が、タイのメーサイ市などを訪問する予定です。

平成 29 年 4 月 28 日



帰るのは寂しい、また日本に、結城に来たい